

1997年、ギタリスト佐藤紀雄によって結成された注目のアンサンブル。若手の才能ある演奏家が集まり、新たなアイディアによるプログラムにより、20世紀そして現代作品を演奏。「NOMAD」(遊牧民、流浪の)の名称にふさわしく、幅広いレパートリーを自在に盛り上げる。メンバーは、横となる14人にゲストを交え、編成もフレキシブルに様々な曲に対応する。

1998年4月から開催している定期演奏会他、東京オペラシティで開催されている「コンポーザム」やサントリーホールでの「サマーフェスティバル」(東京の夏)音楽祭等に出演、世界の「現在」を鮮やかに伝える。2002年度第1回定期演奏会「ケージとメシアンの間で交わる自然と宇宙に関する空想の復讐書簡」は、特に高く評価され、サントリー音楽財団「第2回位位位歌三賞」を受賞。

海外との交流も積極的に行い、2000年にオランダ・ベルギーにて公演。2001年2月東京開催の「HOLLAND MUSIC DAYS IN TOKYO」(オランダ現代音楽センターがウデアムス主催)に出演し、オランダ、日本両国の作品を演奏。2002年11月東京で開催された「ポリ・ニ・プロジェクト in 東京」に出演するなど、特筆すべき公演にも関わっている。

2003年7月には、ベネズエラの首都カラカスにおいて開催された国際音楽祭「フェスティバル・アテンポ」に招かれ公演。さらには、2005年11月の「フェスティバル・アテンポ・パリ」(フランス)およびハダースフィールド現代音楽祭(イギリス)にも招かれ、海外での実績も着実に積み重ねている。

CDは、近藤真樹作品集「視子」(ALCD-47)「空の結め」(ALCD-57)、石田秀実作品集「神聖な社の廻り 気を通ぶもの」(ALCD-60)が発売されている。

Ensemble NOMAD 2005-06

※30 Concert

program

- Mika Barok (1881-1945): Kontraste (1936)
- Edgard Varèse (1883-1965): Density 21.5 (1936/44)
- Igor Fyodorovich Stravinsky (1882-1971): Septet (1974)
- Alben Berg (1883-1935): Adagio (1935)
- Francis Poulenc (1899-1962): Sinfonie (1930-32/39-40)
- Antoni von Webern (1883-1945):
- Konzert für 9 Instrumente op.24 (1934)

- Norio Sato, conductor
- Doggen Kinowaki, flute
- Hiroya Kikuchi, clarinet
- Fumiko Kai, violin / viola
- Tomoya Kikuchi, cello
- Satoshi Inagaki, piano
- Kan'ichi Nakagawa, piano
- quintet
- Norihito Hayashi, oboe
- Rie Tsukahara, bagpipe
- Takaya Hatton, trumpet
- Kenyo Hagiwara, horn
- Koh Okumura, trombone

Ensemble NOMAD 2005-06



佐藤紀雄 (指揮) / 本ノ藤真樹 (フルート) / 石田秀実 (クラリネット) / 原口真代 (ヴァイオリン)



原口真代 (ヴァイオリン) / 藤原真樹 (クラリネット) / 藤原真樹 (ピアノ) / 佐藤紀雄 (ピアノ)



石田秀実 (オーボエ) / 藤原真樹 (ヴァイオリン) / 藤原真樹 (クラリネット) / 藤原真樹 (ホルン)



藤原真樹 (クラリネット)

お問い合わせ・ご予約：東京コンサート
TEL.03-3266-9755 <http://www.tokyo-concerts.co.jp>

—アンサンブル・ノマド設立10周年記念シリーズ—
アンサンブル・ノマド(2006-2007)定期演奏会
会場：東京オペラシティ/サイタルホール

※31
2006年9月12日(火) 19時開演
[パリから……アへ]
L.フェラーリ(1929-2005)/F.U.—東京—パリ(2002)
ピアノとテープのための小品集
内村のための歌(1988-94)

※32
2006年11月13日(月) 19時開演
[東からの風]
バルトーク(1881-1945):2套のピアノと打楽器のためのソナタ(1937)
リゲティ(1923):弦楽四重奏曲第2番(1968)
ウルターク(1926):ロベルト・シューマンへのオマージュ(1990)
プロコフィエフ(1891-1953):五重奏曲短編 op.39(1924)

※33
2007年1月22日(月) 19時開演
[空間に遊ぶ]
フェルトマン(1926-87):ロスコ・チャペル(1971)
高橋悠治(1936):マナゲル(1971)
タッカーニ:冬の歌—ヴァイオリンとテープと電子音のための(1995)
マルデルナ(1920-73):ひとつの部屋のためのセレナータ(1967)
アンドリーセン(1929):ジルバー

※34
2007年3月9日(金) 19時開演
[20世紀の室内楽 II]
ネルト(1958):夜と朝のあいだで(1984)
望月 享(1969):Work (2002/03)
コルテカンガス:夜のアラベスク(1995)
石田秀実(1950):神聖な社の廻り気を通ぶもの
—ソプラノと三重奏のための(2000)
パゴロ(1930):道徳のモンゴ(1987)
マウロ・ランツァンパロ